企業名：　　紀陽銀行

レポート名：　統合報告書 2022

1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか

私は、紀陽銀行の「統合報告書 2022」を読むと当行の目指している将来の姿が理解できると考える。当行は和歌山県と大阪府を中心に展開している。紀陽ファイナンシャルグループは地域社会の繁栄へ貢献することと、地域とともに歩み、堅実経営に徹し、たくましく着実な発展をめざすことを経営理念としている。長期ビジョンとして、お客様との価値共創と企業変革への挑戦を続け、人が未来を創造する地域金融グループとなることが掲げられている。どれも漠然とした理念であるように感じるが当行の統合報告書には 6 次中期経営計画に沿って具体的な活動が行われている。地域社会を基盤にしている為中小企業分野への経営資源の集中投下に取り組んでおり、地元企業へのサポート体制＆コンサルティング機能の強化を行っている。コロナ禍を経験し地元企業を取り巻く環境が大きく変化している中で、紀陽銀行ではＩＴコンサルティングや SDG s コンサルティング、ＢＣＰコンサルティングなど、当行グループの強みを活かしたコンサルティングメニューの強化や地元地域の課題解決に資する活動を積極的に展開している。又、コロナ禍でダメージを受けた企業への資金繰り支援や、後継者育成や財務正常化におけるサポートを行っている。現在の当行の和歌山県におけるメインバンクの県内シェア率は全国 2 位を占め、県内に 68 店舗展開しており和歌山県の中心的な銀行であると言える。以上から紀陽銀行は地域社会を支え、貢献することを経営理念としており、実際それを実現させるための行動を起こしていると言える。

2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか

当行は和歌山県におけるメインバンクの県内シェア率全国 2 位を占めており、大阪府にも 41 店舗展開し、大阪府下メインバンクのシェアが 6 位と大阪府以外に本店を置く金融機関としてはトップ水準である為、和歌山県と大阪府にとっては必要不可欠な存在であると言える。加えて当行では持続可能なビジネスモデルとして「中小企業向け貸出を起点としたビジネスモデル」を展開しており、第 6 次中期経営計画においても地元企業とのリレーション重視の営業活動を続けている。メイン取引へのこだわりにより浸透した本業支援活動が当行の最大の強みであり、「中小企業取引」における圧倒的な競争優位性を持つと言える。事業環境が変化していくなかでも、「中小企業の成長支援」は地域社会の持続的な発展に貢献していくうえで必須であり、いつの時代も当行の存在意義を見出せる分野である為紀陽銀行は競争優位性を持つ。今後もこれらのビジネスモデルを追求すれば地元企業の更なる成長発展と収益機会の拡大が期待できるだろう。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

統合報告書を読んで、私は紀陽銀行の競争優位性に持続性があると理解でき、その持続性は高いと考えた。企業の競争優位性及び発展が持続するには、事業を牽引出来る後継者の育成が必要不可欠であるが、紀陽銀行では人材育成の為のキャリアチャレンジ制度や外部研修への派遣制度、公的資格等取得奨励金制度がある。各種研修コンテンツは階層別に分けられており、マネージャークラス、リーダークラス、ジェネラルクラスと細かく分類されており、種類ごとに異なった専門性の高い研修が提供されている。地域の学生に向けた金融教育プログラムも組まれている。和歌山大学では当行役員による「和歌山企業トップ経営論」の講演が行われており学生にとっては実践的な学びが得られるいい機会となっている。他にも当行役員による「企業実践講座」や高校生向けの金融基礎教育プログラム「MoneyConnection」が実施されている。更に、近年重視されているワーク・ライフ・バランスも当行では重視されており、終業時間前の退勤を励行するワーク・ライフ・バランスデーの制定や復職サポート手当、チャイルドプラン休業制度等が実施されており、働きやすい職場環境となっている。どちらも企業の持続的な発展になくてはならない要素である。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は紀陽銀行で自身の人的資産の価値向上を達成できると考える。前述の通り紀陽銀行では人材育成に力を入れており、役員への教育プログラムが豊富である。2022 年 4 月からは「学びポイント」が導入されている。選択した講座等の受講完了によりポイントを取得できる仕組みで、必要な知識や将来のキャリア目標に合わせ自由に講座を選択出来るようになっており、役員のインセンティブを与えられる制度である。更に、他行や他業種の人材との交流による視野の拡大、思考力強化を図るために各種ビジネススクール等への派遣を実施している。2022 年度からは、関西企業数社で実施する異業種交流研修「異業種クロスラーニング」への派遣を開始し、多様な価値観に触れる機会が提供されている。以上を初め紀陽銀行では様々な教育プログラムがあり、役員の人的資本価値の向上に適した環境であると言える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかった点

① 統合報告書が全体として紺色基調で統一されており見やすい作りになっている。所々写真も挟んでおり、視覚的にも読み進めたいと思わせられる報告書である。

改善点

① 統合報告書の最後のページに会社概要や、紀陽フィナンシャルグループの関連会社情報、株式情報等が掲載されているが、これらは企業を知る為の基礎的な情報である為、まず目につく報告書の最初の方に持ってくるべきだと思った。

② PDF 資料は量が多く、一般の人からしたら手が出しづらいためオンライン上に簡潔にまとめたものを別で用意すると見やすくなると思った。

③ 紀陽銀行では人材育成を推進しているが、細かい所の説明が抜けていると感じた。
（例：ｐ24 で紹介されている「学びポイント」の導入についての説明で、講座受講完了時に取得できるポイントになんの意味があるのか明記されておらず、情報が不十分。）